

2025年
2月発行

第33号 宝同協だより

め ぼ 芽 生 え



編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号(宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内) TEL:0797-77-2040/FAX:0797-71-1891

2024年度 ハーとん じんけん作品賞 入賞者のお知らせ

【ポスターの部】

○最優秀賞(3点)



綾城 楓さん(末広小 2年)



内堀 仁香さん(すみれが丘小 5年)



小山 紗季さん(光が丘中 3年)

○優 秀 賞(6点)

上田 莉穂さん(長尾南小 3年)・宇藤 汐音 さん(美座小 3年)・浦林 飛翔さん(小浜小 5年)
前澤 汐奈さん(逆瀬台小 5年)・木須 久美子さん(宝塚中 2年)・柳生 百花さん(長尾中 2年)

【標語の部】

○最優秀賞(4点)

牧浦 秀聖 さん(雲雀丘学園小 1年) 『 ぼくはみる あいさつするとき あいてのめ 』
川内 翔太 さん(逆瀬台小 4年) 『 やさしさの バトンリレーは 自分から 』
春山 蒼嵐 さん(安倉中 1年) 『 ちがいは みんなが持つてる 宝物 』
安宅 由紀子さん(市 民) 『 ちがうこと それがわたしの強みです 』

○優 秀 賞(8点)

森本 夏生さん(美座小 3年)・古林 葵さん(良元小 3年)・高石 絢仁さん(雲雀丘学園小 5年)
中山 欣志郎さん(丸橋小 6年)・平井 陸翔さん(山手台中 3年)・松原 光莉さん(宝塚中 2年)
伊藤 勲さん(市 民)・今北 真奈美さん(市 民)

【作文の部】

○最優秀賞(4点)

長江 陽也さん(安倉北小 3年) 『 勇気をだしてよかったこと 』
竹内 瑤絵さん(仁川小 5年) 『 ありのままでいられるように 』
天野 純 さん(長尾中 3年) 『 「文章だけ」で伝えることの難しさ 』
中川 陸聡さん(雲雀丘学園高校 2年) 『 地域共生社会のために私ができること 』

○優 秀 賞(8点)

横井 星来さん(宝塚第一小 3年)・松田 悠汰さん(小浜小 3年)・石塚 久恩さん(丸橋小 6年)
高下 誠太さん(末広小 6年)・奈良 凌明さん(南ひばりが丘中 1年)・小旗 咲衣さん(宝塚中 3年)
松尾 珠里さん(雲雀丘学園高校 1年)・鈴木 雅子さん(雲雀丘学園高校 2年)

【写真の部】

○最優秀賞(1点)



高橋 直輝さん(長尾中 1年) 『 今度は僕がささえるよ 』

○優 秀 賞(2点)

舘原 藍さん(丸橋小 6年)・中原 拓也さん(光が丘中 1年)

※ 最優秀賞・優秀賞受賞者のみを掲載しています。
※ 佳作を含めた全受賞者名やポスター、写真、
標語の受賞作品は、宝同協のホームページにて
ご覧いただけます。





2024年度 ハーとん じんけん作品賞(作文の部)入賞作品の紹介

【最優秀作文】

地域共生社会のために私ができること

雲雀丘学園高等学校二年

なかがわ りくこ
中川 陸聡



電車の発車時刻まで、残り三分を切った。「行つてきます。」と家を飛び出す。そして今日もはす向かいのおばあちゃんの家の木の雨戸が少し開いていることを横目で確認しながら、駅までダッシュする。

はす向かいのおばあちゃん。十年ほど前に主人を亡くされてから一人暮らしだ。「うちには子どもがおらんからね。あんたことを頼りにしてるよ。」とおばあちゃんが母に話すのを昔から何度も耳にしてきた。おばあちゃんは、朝早く起きると家の二階の雨戸を少しだけ開ける。これがおばあちゃんの習慣だ。雨戸が開いている。これは今日もおばあちゃんが元気に朝を迎えたという証である。そして、夕方になると雨戸がきっちり閉められている。これはおばあちゃんがある朝、いつものように私が家を飛び出すと雨戸が開いていた。

駅までダッシュしかけていた私は慌てて家に戻り、「お母さん！おばあちゃん家の雨戸が開いていない！」と叫んだ。すると母が「ああ、ごめんごめん。おばあちゃん昨日から旅行行っちゃって言ってたわ。」と言ったので、私はホッと胸をなでおろした。電車は一本乗り遅れることになったが、安堵の気持ちで駅までの道をゆっくり歩いた。

『近所付き合いの低下』よく聞く言葉である。近年では、マンションだけでなく、一軒家でも隣にどんな人が住んでいるのかを知らないケースもあるそうだ。内閣府の『社会意識に関する世論調査』によると、地域で付き合いがあると答えた人の割合はこの十年で十パーセントほど減少し、四十五パーセントを切っている。また地域付き合いの希薄化は、大都市、若者で顕著であることも分かる。

元旦に起きた能登半島地震は、震災はいつ起こるか分からないという現実を私たちに突きつけた。その日の夕方、いつものようにおばあちゃんの家の雨戸が開められていることを確認し、いつも以上にホッとした。しかし、テレビでは能登の悲惨な被害の映像が次々に映されていた。極寒の中、避難所生活を余儀なくされる人々の様子が伝えられる度、私は心が痛んだ。地震から数週間がたったころ、被災した高校生がボランティアとして避難所の日常を支えているというニュースを目にした。被災時には特に、老人や障害者、子ども

が取り残されないような配慮が必要だ。そうした避難所の日常を支える。そう、当たり前ではあるが、高校生である私もいざという時には、地域の人々を支える年齢、立場なのだとすることに改めて気づかされた。

高校の休校日、私はよく妹を小学校まで送っていく。「おはよう。」という元気な声が飛び交う通学路を歩くのが私は好きだ。登校班に付き添う保護者、交差点で見守りをしている地域の人もいて、通学路は本当に賑やかだ。「今日、〇〇さんは出てこんの？」「今日から田舎へ行くって言うてたわ。」と、見守りをしてくれている人同士の会話も聞こえてきて地域の温かさを感じる。通学路にある家のおじいちゃん、おばあちゃんも花の手入れをしたり、家の前の掃き掃除をしたりしながら、「行つてらっしゃい。」と次々に声をかけてくれる。駅までダッシュで三分という中都市の地域に残る、この朝の光景を私は誇りにさえ思う。この通学路を歩く回数を重ねるごとに、私も子どもたちや地域の人たちと顔なじみになってきた。もちろん最初は地域の見守りを自覚的に担おうと思った訳ではなく、義務感での付き添いだっただ。しかし、今は私たち高校生、若者も、そうした役割を担っていくべきだし、担っていきたいと思うようになった。

近年、小学校の登下校の安全を見守る地域の『見守りボランティア』の高齢化、成り手不足が問題になっている。負担軽減のために警備員を雇う案が出ている地域もあるようだ。お金で解決できるのであれば、というのが本音であろう。しかし、本当にそれでよいのかと私は疑問に思う。

地域の中で、結びつきを持つて生活することは、地域に暮らす人々の人権意識を高めることだと思う。この人権意識は、お金では得られないし、即席ではできない。地域に目を向けて生活することによる小さな気づきが、とりわけ子どもや支援の必要な人々の人権、命を守ることになる。特に、災害の時などの有事にも、こうした日頃の結びつきがお互いを救うことになるだろう。私たち若者世代も、学校や職場以外の地域社会においても、居場所はあるし、また必要とされる場面があるのだという感覚を持つことが理想だ。このことが地域に暮らす安心感であり、ひいては共生社会そのものだとは私考える。「おかえり。お兄ちゃん、何年生になったんやった？うちの子は子どもがおらんから・・・。」はす向かいのおばあちゃんが声をかけてくれた。もう何度されたかわからない同じ質問に同じ話。夕暮れ時、私は、時折犬の散歩で通り過ぎて行く人に挨拶しながら、傾聴する。



第14回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」と分科会の紹介(参加者の感想文より)

【佐藤】



High-Five さんによる演奏

1月18日(土)に開催された研究大会には、190名の参加がありました。全体会のオープニングでは、High-Five さんによる心温まるオカリナ演奏が行われ、その後7つの分科会に分かれて交流会が開催されました。分科会は、報告者の実体験や実践を聞き、参加者による意見交流が行われる形式です。以下に、分科会ごとの参加者アンケートの回答の一部を紹介します。〈アンケート回答者：129名〉

① 不登校経験から未来へ 現役高校生が不登校から前に進もうと思えた体験、将来の夢を語られました。



報告者の方の生き方が、とても素敵だな、と感じました。不登校の現在地ばかり気にして、将来に向けた話をするのが大切なのに、と自分のこれまでの教育を反省しました。子どもの将来を見すえた声かけをしていきたいと感じました。ありがとうございました。

② 部落差別について考えよう 部落差別を受けた報告者が、差別の現実や識字教室での学びや体験について語られました。



報告者の方の話を聞いて、ドキッとしました。やっぱり当事者の方の話を聴くことって大切だと思いました。また、差別をなくすには、自分自身に問いかけることが大切だということに共感しました。しっかり受けとめて今後活かしていきたいです。ありがとうございました。

③ 障がいのある人たちと共に 高校卒業後の進路や、地域での出会いとふれあいの大切さについて語られました。



終始前向きな印象で、お母さんの前向きさが報告者の元気さに繋がっていると思いました。目に見える障がいだけでなく、発達障がいなどの理解も増えてきている中で、障がいの有無にかかわらず、人と人との間に壁のない環境が作られればと思いました。

④ 外国人の人権を考えよう 外国出身の報告者が、自らの生い立ちと日本への思い、今後の願いについて語られました。



寛容であることでみんなが通いやすい学校になると話をされていて、それこそ、ウェルビーイングがあれば、みんなが楽しくみんなが生活しやすい学校になるのだなと思いました。…心の壁を取り除くために私たちにできることはないか、考え行動していきたいです。

⑤ さまざまな性について考えよう 小学生とその家族が、性の多様性について体験や、あるべき未来について語られました。



報告者のお話はとてもよくわかり、改めて学校での改善面も見えてきてよい学習となりました。ありがとうございました。施設面の課題点も、市の条例をつくっていききたいというお話にも共感させられました。この会にまだ参加されていない方にも啓発していこうと思いました。

⑥ 人生にいまさらはない 海外で生まれた報告者が、外国人差別を乗り越え、前向きに生き学び続ける波乱の人生について語られました。



報告者の生い立ちは、想像を絶するものでした。そのお話の中で「人生の評価の軸を自分におく」という大切さを学びました。他人の評価は気になりますが、「自分は自分」「幸せは自分のもの」と、自分にも子どもたちにも言い聞かせていきたいと思いました。

⑦ 持続可能な人権教育をめざして 学校現場における人権教育の実践と課題について語られました。



学びのつどいでは地域の人とも交流ができるので、新しい考えに触れることができました。今年も担任として、クラスの子と一緒に人権について考えることがあるのですが、これからも自分の人権感覚を磨きながら頑張っていきたいと思います。

連載 夢と希望はどこに? ②⑧ 二者択一から多者平等へ

テレビの大河ドラマの影響は大きいですね。「源氏物語」より「枕草子」が好きだったのに、逆になったとか、秀吉は凄いのと思ってたが、家康の方が本物の武士だと考えを変えたとか・・・根っからの阪神タイガースファンが巨人ファンになることは少ないようですが、それでもテレビの影響はネットと共に大きいですね。

私たちは時として二者択一を好んでしまいます。どちらかを決めることで所属感を持ち、安定性を保つとしていくのかも知れません。一方で、選ばれた側は嬉しくなり、自信を得ます。選ばれなかった方は残念がったり、反省したりしてしまうのが世の常です。

歳をとってくると、若い頃が懐かしくなり、あの頃は血気盛んで社会主義国家が理想だと信じていたのに、今では自由主義国家に安堵の暮しをしていらつしやる方も多いのではないかと思います（あくまで個人的な想像です）。歳でも変化してしまいます。

これからの時代を生きていくには、新しい考え方を取り入れていくことが大切なのかもしれません。夏か冬か、ご飯派かパン派か、林檎派か梨派かなどはともかく、男か女か、障害があるとかないとか、外国人だからとか、名門校出身だとか、家事か仕事か、頭か肉体か、など二者のどちらかを選択する時代では無くなりません。人権とか権利とか詳しいことを学んでいなくても、みんなを受け入れていくことが、私たち年寄りには大切なですね。そうでなければ、若者たちは年寄りを尊敬して、あるいは自己責任を他者に負わせて、真似してしまふことが無きにしも非ずです。

二者択一から「多者平等」へ考えを変えていきましよう。いや、「多者共同」で行きましょう！

それでも、差別か否かははっきりしておかないと、まあまあとなり「弱者同情」、個性無視の「多者融和」になることを肝に命じておきたいものです。

【和久】

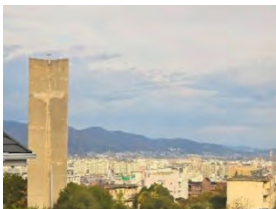
Ha-ton-zu 「〇〇の壁」 (ハートズ)

- ボク 「テレビで『〇〇の壁』とかよく言ってるね。二一の壁は何？」
- ニ一 「就活の壁かな。ネーヤンは？」
- ネエ 「もちろん、結婚の壁だよ。おかんは？」
- オカン 「私はみんなのこと考えたら、消費税の壁かなア。あなたは？」
- オトン 「オレはやっぱし、ベルリンの壁だな。知ってる？」
- ボク 「知らな。い。デコピンの壁なら知ってるけど・・・」
- オカン 「ベルリン知らないと恥ずかしいから、ネットで調べなさいよ。」
- ネエ 「食事中スマホ使っているの？ いつもダメ言うのに・・・」
- オトン 「かあさんの言うことは、ちゃんと聞きなさい！」
- ニ一 「大人はいつも矛盾すること言うから、いやだな」
- ボク 「我が家にも『親子の壁』があるんだね！」

【和久】

街角風景

仁川の高台から
【平松】



編集後記

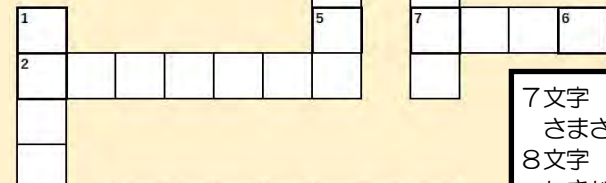
心温まる人権作品をありがとうございました。人権作品や人権交流学びのつどいの熱い思いを届けることができたでしょうか。私たちはこれからも皆さんへ思いやりや優しさをお届けできるようにしていきます。

【平松】

芽生えパズル

〇たて・よこのマス目に下の文字をうまくあてはめます。
〇太いマス目に入った文字を並べ替えてある言葉にします。
(答えは下にあります。)

3文字 いきる
る一つ
4文字 やさしい
いぶんか
5文字 きょういく
きょうせい



【倉石】

1 2 3 4 5 6 7

7文字
さまざませい
8文字
しきじきょうしつ

学校の様子

南ひばりが丘中学校



今年の文化発表会のスローガンになった「個性」。
全校生徒が1つずつ折った星を貼りました。1人ひとりの個性が星のように輝けるようにという思いを込めています。

【黒田】

宝同協だより「芽生え」編集委員

菅 理香・平松 友紀・津国 千恵子・林 眞佐男
倉石 拓・立見 瑛美・黒田 勝紀・池澤 径子
横山 純子・和久 有彦・西口 信幸・石櫃 孝啓
佐藤 光児・美除 浩・古芝 道敏